

大 原 功 議員



20年に市長が行つたポート セールスについて聞く

問

市長が行つた海外研修

【**】について聞く。**

20年10月の2週間、市長が赴いたポートセールス(港湾の各種誘致活動)。

市臨海部の鍋田ふ頭を含む名古屋港PRのため、同港利用促進大使団の一員として、地中海・北アフリカ諸国を訪問した。

(1) (視察) 費用が高過ぎるのはどうか。

(2) (視察先から) 市に輸入されるものは何があるか。

21年に国が直轄事業で着工した、鍋田ふ頭に整備中のコンテナターミナル。

水深12mの岸壁を250m建設、クレーンや進入道路等を整備する。総事業費約264億円、整備期間は27年度までを予定。



答 副市長

今回、フランスの船会社への訪問が功を奏したと思うが、地中海と日本ルートが9年ぶりに再開した。

市のメリットは特別どん讓与税が入る。21年度は約1億2千万円で、物流が盛んになれば、背後地の発展を宣伝することは、大いに効果があると思っている。

しかし、同席で申請や決定が左右されるものではなく、恣意的なものが入り込む余地はない。

答 福祉課長

本人の同意の下、同席した例はあった。

あるが、決定は左右されない

窓口で議員同席の事例はあるか

問

議員報酬日当制の市長提案を

(1) 港湾開発は市の最重要課題であり、第3バース【**】の整備(促進)には、ポートセールス参加が非常に有意義だったことを理解してほしい。**

答 人事秘書課長

3回目はない。

わたしは現行制度がいい

（2）議員提案してはどうか

議員自らリーダーシップをとり、議員各位とよく協議し、議員提案してもらえば結構ではないかと思つて

生活保護の受け付けに来る（人があるという）話を聞いたがどうか。

選択し、職員の自主参加を求めたものであり、わたしも（1回目）に参加した。

2回目は（欠席し）配慮が欠けていたと自省・自戒している。